

自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりして、学び合うことの楽しさを感じながら、計算の基礎を身に付けていた納所小1年1組算数・たしざんの授業。小池公仁隆校長は「子どもたちに合った学び方を私たちが研究・公開し、他校に発信したり、助言を受けたりしながら、教育力を高め合うことは、名実共に日本一の教育環境といえる多久市になっていくことでしょう」と、子どもたちの未来や研究会が持つ役割の大きさに期待を込めています。



小学校で培った学び合いを中学校で伸ばし 確かな学力を将来に生かそう!

多久市学力向上
研究会

多久市学力向上研究会（片淵幹生会長＝緑が丘小学校長）は11月5日、平成21年度の研究成果発表会を東部中学校校区の3校で行いました。同研究会の概要とともに、東部中学校校区の取り組みや公開授業の様子を紹介します。

小中連携で9年間を核に 子どもを育てる研究会

多久市学力向上研究会は、市内小中学校の教諭らでつくる児童生徒の学力向上を目指す組織です。研究主題の下、全教職員が英知を結集し、自らの指導技術向上、児童の基本的な生活習慣・学習習慣の確立に向けた研究を重ねています。

平成13年度に発足以来、西溪・中央・東部中学校区を単位に「9年間を核として子どもを育てる」という「小中連携」に視点を当てながら『学

力向上』に一丸となつています。『基礎学力の定着』『確かな学力の向上』に続く今回（平成19年度から21年度）の研究主題は、『「確かな学力」をつなぐ9年間。確かな学力とともに、健やかな心と体の成長などの生きる力を育むために、3中学校区ではそれぞれが研究テーマを掲げ、授業実践や研修会、交流会などを行っています。』

学び合いをテーマに成果や 授業を公開

東部中学校区では、『学び合い』ながら伸びる児童・生徒の育成』をテーマに掲げ、それぞれの学校毎に「学び合い」のあり方を研究。学習指導研究部、心の教育研究部、家庭・地域連携部の3部を組織し、基本的な学習習慣・生活習慣を身に付け、心豊かな児童生徒が育つ環境づくりを行っています。東部小・納所小、東部中3校それぞれが各学校の教育目標や児童生徒の実態に応じて、独自性を生かした「学び合い」に取り組

み、小学校での学び合いが中学校の学び合いに生かされるよう進めています。
小学校では、2人で話し合う場面やみんなで話し合う場面、学び合う雰囲気づくり、

分らない児童やうまく発表できない児童への手立てなどを学習活動の中で教師が意図的に支援を行い、目指す児童像に近づいています。

また、中学校では、小学校で培った力を生かし、生徒同士が主体的に学び合えるような支援を行うことで、目指す生徒像にせまります。

県内外から教育関係者が参観。 今後の教育現場で生かされる

東部中学校区は、平成20・21年度の佐賀県教育委員会研究指定地域にもなっており、11月5日の発表会会場となつた東部小・納所小・東部中の3校には、県内外の教育関係者約350人や保護者らが参観。全体の研究概要や3部会の取り組み、校内研究の概要説明をそれぞれの学校で行

い、公開授業、授業研究会へと移行しました。

保護者は、「子どもたちが話し合い、答えを導き出す途中を大切にされている。この学習は考える力が付くと感じました」と、教育関係者は「私も学び合いをさせながら、自分の考えを言える学級の雰囲気を作り、子どもたちの人間関係を形成する力や学力の向上を目指します」と話し、熱心に参観されていました。

平成22～24年度は、『小中一貫教育準備期』に入ります。多久市学力向上研究会では、今後も児童生徒の学力向上に主眼を置き、小中連携教育をさらに充実させながら、小中一貫教育の準備を進めていく方針です。

定例教育委員会のお知らせ

12月10日に定例教育委員会を開催しました。
この中で、市民が教育に関心を持ち、子どもたちの教育について考え、実践する日として「多久市教育の日」を設けることを協議し、期日や方法など、実施に向けて今後検討していくことになりました。
次回の定例教育委員会は、1月13日(木)の13時30分から第3委員会室(市役所2階)で開催します。
傍聴は自由です。

■問い合わせ 教育委員会

教育統括室(市役所4階) ☎75-3450